

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)

【公表番号】特表 2007-502669 (P2007-502669A)

【公表日】平成 19 年 2 月 15 日 (2007.2.15)

【年通号数】公開・登録公報 2007-006

【出願番号】特願 2006-524025 (P2006-524025)

【国際特許分類】

**A 6 1 B 17/16 (2006.01)**

**A 6 1 B 17/56 (2006.01)**

**B 2 3 B 45/06 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 B 17/16

A 6 1 B 17/56

B 2 3 B 45/06

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 9 月 18 日 (2007.9.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

近位端および遠位端を有し、切断刃を遠位端に形成したシャフトと、  
壁、近位端、および遠位端を有し、シャフトの少なくとも一部分を囲み、シャフトに対して移動できる外側スリーブと、  
シャフトを外側スリーブ内の初期位置に付勢するように形成された付勢部材と、を含み、  
シャフトは、切断チップの骨への侵入深さを制限するために所定距離だけ、外側スリーブに対して軸方向に移動でき、シャフトは、骨に侵入するのを補助するために外側スリーブの中で回転させることができ、  
外側スリーブの遠位端は、骨板との解放可能な取付けのために寸法付けられ且つ形状付けられている、

ことを特徴とする骨に侵入するための突き錐装置。

【請求項 2】

付勢部材は、コイルばねである、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の突き錐装置。

【請求項 3】

付勢部材は、シャフトを囲むコイルばねである、

ことを特徴とする請求項 1 又は 2に記載の突き錐装置。

【請求項 4】

外側スリーブの遠位端は、骨板との解放可能な取付けのために、雄ねじを有する、

ことを特徴とする請求項 1 から 3 の何れか 1 項に記載の突き錐装置。

【請求項 5】

シャフトの初期位置は、シャフトの切断刃が外側スリーブで囲まれるような位置である、

ことを特徴とする請求項 1 から 4 の何れか 1 項に記載の突き錐装置。

## 【請求項 6】

切断刃による骨への侵入深さを制限するための肩部をさらに含む、  
ことを特徴とする請求項 1 から 5 の何れか 1 項に記載の突き錐装置。

## 【請求項 7】

シャフトの端部に取り付けられたハンドルをさらに含む、  
ことを特徴とする請求項 1 から 6 の何れか 1 項に記載の突き錐装置。

## 【請求項 8】

近位端および遠位端を有する内側スリーブを更に含み、内側スリーブの少なくとも一部分は、シャフトと外側スリーブの間に配置され、付勢部材は、シャフトの少なくとも一部分を囲み、且つ外側スリーブと、内側スリーブの遠位端との間に配置される、  
ことを特徴とする請求項 1 から 7 の何れか 1 項に記載の突き錐装置。

## 【請求項 9】

遠位端、近位端、および遠位端から近位端に延びる貫通孔を有する頂部外側スリーブと、  
遠位端、近位端、および遠位端から近位端に延びる貫通孔を有し、近位端が、頂部外側スリーブと解放可能に係合するように寸法付けられ且つ形状付けられた底部外側スリーブと、  
遠位端、近位端、および遠位端から近位端に延びる貫通孔を有し、頂部外側スリーブの貫通孔の中に少なくとも部分的に受け入れられるように寸法付けられ且つ形状付けられた内側スリーブと、  
遠位端に形成された切断チップを有し、内側スリーブの貫通孔、頂部外側スリーブの貫通孔、および底部外側スリーブの貫通孔の中にスライド可能に配置されるように寸法付けられ且つ形状付けられた突き錐シャフトと、  
切断チップを底部外側スリーブ内に維持するための付勢力を提供するばね要素と、を含み、  
底部外側スリーブの遠位端は、骨板のアンカー孔と解放可能に係合するように寸法付けられ且つ形状付けられる、  
ことを特徴とする突き錐組立体。

## 【請求項 10】

ばね要素は、内側スリーブと頂部外側シャフトの間に配置されている、  
ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

## 【請求項 11】

頂部外側スリーブの貫通孔は、中に形成された肩部を含み、ばね要素は、肩部と内側スリーブの遠位端の間に配置される、  
ことを特徴とする請求項 10 に記載の突き錐組立体。

## 【請求項 12】

突き錐シャフトの近位端は、近位端に連結されたハンドグリップを含む、  
ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

## 【請求項 13】

頂部外側スリーブの遠位端は、頂部外側スリーブの近位端の中に配置される、  
ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

## 【請求項 14】

頂部外側スリーブの遠位端は、底部外側スリーブとねじで係合するためにねじ切りされている、  
ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

## 【請求項 15】

底部外側スリーブ及び頂部外側スリーブの少なくとも一つは、複数の開口を含む、  
ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

## 【請求項 16】

底部外側スリーブ及び頂部外側スリーブの両方は、複数の開口を含む、

ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

【請求項 17】

底部外側スリーブの縁位端は、骨板のアンカー孔に形成された雌ねじとねじ係合するために雄ねじが切られている、

ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

【請求項 18】

内側スリーブは、突き錐シャフトの近位端に機械的に接合している、

ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。

【請求項 19】

突き錐シャフトは、頂部外側スリーブ及び底部外側スリーブの中で回転自在である、

ことを特徴とする請求項 9 に記載の突き錐組立体。